

特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2026 年 第 2 号 (9 月)

ニュースレター

〒 170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 <https://www.perio.jp/>

発行人 吉成伸夫 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】 追悼：亀山洋一郎先生 春季学術大会関連のご案内 日本歯科専門医機構報告
ICD 取得について 各賞募集・選考結果 企画調査研究助成終了報告

国際交流を、学会の日常へ



国際交流委員会委員長
山田 聡

日本歯周病学会は、これまで海外の歯周病関連学術団体との連携を深め、国際セッション、講演者の相互派遣、若手会員の発表支援などを通じて、学術交流を推進してまいりました。国際交流委員長として、諸先輩方が築いてこられた信頼関係を大切にしながら、本学会の国際化をさらに前進させたいと考えております。

国際化とは、単に海外の学術大会に参加することではありません。会員一人ひとりが研究成果や臨床経験を世界へ発信し、異なる背景をもつ研究者・臨床家と議論を重ね、得られた知見や視点を、わが国の研究・臨床・教育の発展、さらには患者や社会への還元につなげていく営みです。とりわけ、若手会員が早い段階から国際的な舞台を経験し、人的ネットワークを築くことは、本学会の将来にとって大きな財産になります。本年秋には、その理念を実践する機会が相次ぎま

す。まず、令和 8 (2026) 年 10 月 23 日 (金) から 25 日 (日) まで、ソウル大学歯学部病院において、The 66th General Session of KAP が開催されます。The 2026 JPIS Evidence-Based International Congress との併催で、JSP 会員は参加費および演題登録料が無料です。日本語を含む多言語同時通訳も予定され、KAP との連携を深める好機です。

続いて、10 月 29 日 (木) から 11 月 1 日 (日) まで、米国シアトルにおいて、「第 112 回アメリカ歯周病学会共催 日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会 2026 年大会」が開催されます。JACP/JSP ポスターセッションも予定され、わが国の研究成果と優れた臨床を世界へ発信し、最新の潮流を学ぶ好機です。

さらに、前号で村上伸也名誉会員・監事が紹介されたとおり、11 月 5 日 (木)、6 日 (金) には、京都市勧業館みやこめっせにおいて、第 16 回アジア太平洋歯周病学会学術大会が開催されます。国内でアジア太平洋地域の研究者・臨床家と交流できる貴重な機会です。

国際交流を、一部の会員に限られた特別な経験ではなく、本学会の日常的な活動として根付かせることが、国際交流委員会の使命です。3 つの大会に多くの会員の皆様が参加され、新たな視点とつながりを研究・臨床・教育の場へ持ち帰ってくださることを心より期待しております。

追悼 亀山洋一郎 先生



2026年1月27日に89歳でご逝去された亀山洋一郎先生を偲び、心からの感謝と敬意を表します。

亀山先生との出会いは、私の研究者としての道を切り開く大きな転機となりました。大学院2年生より、私は夕方まで歯周病科で診療・実験を行い、夜は試料を持って亀山先生の病理学講座に行き、組織切片を作成する日々を続けました。先生は常に私の研究の進行状況を気にかけてくださり、折々に貴重なアドバイスをいただきました。

亀山先生は英語が非常に堪能であり、論文を英語で書くことの重要性を強調されていました。私の英語論文もいくつかご指導いただき、そのおかげで研究成果を国際誌に発表することができました。先生の下で学んだことは、私の研究者としてのキャリアにおいて基盤となり、今でもその教えを胸に日々行動しております。

亀山先生の主な功績は、口腔病理学の分野における数々の重要な研究にあります。特に、口腔腫瘍に関する研究では、口腔癌や口腔腫瘍の原因やメカニズムの解明に大きく貢献されました。実験的口腔前癌病変の形成過程におけるパピローマ・ウイルスの関与を明らかにし、現在では口腔癌や咽頭癌の原因ウイルスとして広く認識されています。この研究は、将来の口腔癌の予防や治療に向けた新たなアプローチを提供するものであり、亀山先生の先見の明と科学への情熱を示しています。

また、顎関節病変に関する研究では、糖尿病や加齢による顎関節への影響を明らかにし、顎関節症の予防や治療に大きく貢献しました。さらに、歯周病に関する研究では、歯周病の病因、修復機構の解明、そして、

ペリオドンタルメディシンの概念以前より歯周病と全身疾患との関連を追究されました。具体的には、歯周組織の加齢的变化や創傷治癒、好中球減少状態や種々の疾患の歯周病への影響を研究されています。これらの知見は、臨床現場での歯周病治療において重要な指針となっており、患者さんの生活の質を向上させるための重要な基盤を築いたといえるでしょう。先生の研究業績は、口腔病理学の教科書や専門書として多くの大学でも使用されています。なかでも先生が著した「口腔病理カラーアトラス」は、視覚的にわかりやすく、臨床現場で頻繁に遭遇する病変を鮮明なカラー写真と簡潔な解説で紹介しており、学生たちが病理学を学ぶ際の強力な助けとなっています。

亀山先生は、愛知学院大学歯学部部長や大学院歯学研究科長として、歯科医師の育成に力を注ぎ、国家試験合格率を大幅に向上させるなど、教育の質の向上にも尽力されました。先生の教育理念は、単に知識を伝えるだけでなく、学生が自ら考え、挑戦する姿勢を育むことにありました。このような指導の下、多くの学生が自身の可能性を信じ、優れた歯科医師として巣立っていきました。先生の貢献は、学問の発展だけでなく、教育の場においても末長く生き続けることでしょう。

さらに、先生は国内外の学会でも活発に活動されました。特に、日本口腔病理学会の初代理事長として、口腔病理学の基礎を築き、学術活動を活性化させるための多くの施策を講じられました。先生の尽力により、多くの研究者が集まり、口腔病理学の進展に寄与する場が整えられました。日本歯周病学会におかれても、理事として長らくご指導・ご貢献いただきました。

いつお会いしても言っていた「研究ちゃんとやってるのか。論文書くんだよ」という先生のお言葉は、私の心の中で生き続け、未来の研究者たちに引き継がれていくことでしょう。先生の教えを胸に、今後とも研究・臨床・教育の道を邁進していく所存です。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

亀山先生、今まで本当にありがとうございました。

松本歯科大学歯科保存学講座（歯周）

吉成伸夫

第 70 回春季日本歯周病学会学術大会のご案内

令和 9 (2027) 年 5 月 21 日 (金)・22 日 (土) の 2 日間、第 70 回春季日本歯周病学会学術大会を、東京国際空港、通称「羽田空港」に隣接するベルサール羽田およびコンgresクエア羽田において開催いたします。第 70 回という節目の学術大会を主幹できますことを、大変光栄に存じます。

本大会のテーマを「歯周病治療を科学する (The Science of Periodontal Therapy)」といたしました。

歯周病治療は、基礎研究、臨床研究、疫学研究、そして日々の臨床実践の積み重ねによって発展してきました。一方、臨床現場には、経験豊かな術者が培ってきた知識や技術、判断といった「経験知」が数多く存在します。本大会では、こうした経験知を科学的に問い直し、基礎研究の知見を臨床へ還元するとともに、臨床で生じた疑問を新たな研究へとつなげる、基礎と臨床の対話を目指します。

「なぜ治るのか」「なぜ再発するのか」「何をもって治癒や治療の成功とするのか」。こうした本質的な問いを通じて、「歯周病治療を科学する」とは何かを、参加者の皆様とともに考える大会にしたいと願っております。さらに、超高齢社会において歯周病治療に求められる役割を見据え、科学的エビデンスを日常臨床と社会へ還元することも、私たち歯周病学に携わる者の重要な使命です。

本大会では、テーマである「歯周病治療を科学する」をさまざまな角度から掘り下げるプログラムを企画しております。

特別講演 I では、白方良典先生 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 教授) に、「歯周組織再生に関するエビデンス、Critical Thinking の重要性 (仮)」と題してご講演いただく予定です。最新の科学的エビデンスを踏まえ、研究成果をどのように吟味し、個々の臨床に応用するかについて、歯周組織再生療法を通じて考える機会となります。

特別講演 II では、Jan Derks 先生 (Professor, Department of Periodontology, Sahlgrenska Academy, University of Gothenburg) に、「『治癒』の定義を再考する：成功と生存の科学、そしてインプラント周囲炎の真のリスク (仮)」と題してご講演いただく予定です。治療後の長期安定性を決定づける因子は何なのか、また、治療介入のタイミングや外科療法と非外科療法の

選択をどのように考えるべきなのか。ご自身の研究成果を基に、最新の疫学的エビデンスと国際的な視点から、私たちが日常臨床で用いている「治癒」や「成功」の評価基準を科学的に問い直していただきます。

特別講演 III では、二階堂雅彦先生 (二階堂歯科医院) にご登壇いただきます。米国歯周病専門医としての豊富な経験を有し、臨床と科学の橋渡しを実践してこられた二階堂先生から、臨床家が抱く疑問をどのように科学的な問いへと変換し、得られたエビデンスをどのように個々の患者の治療へと応用するのかについて、ご講演いただく予定です。

シンポジウム I では、林 千絵先生 (Perio Health Institute Pacific-Rim)、築山鉄平先生 (つきやま歯科医院)、和田圭祐先生 (アイスマイル歯科クリニック東京) にご登壇いただき、現代の歯周治療に求められる科学的根拠と臨床判断の関係について、多角的に考えます。

シンポジウム II では、「歯内-歯周病変の治療を科学する」をテーマとして、中島麻由佳先生 (新潟大学大学院医歯保健学研究科歯周診断・再建学分野 助教)、室町幸一郎先生 (神奈川歯科大学臨床科学系歯科保存学講座歯内療法学分野 教授)、永原隆吉先生 (日本鋼管福山病院) にご登壇いただきます。基礎研究・歯内療法学・歯周病学の視点から、複雑な病態の理解と科学的根拠に基づく治療方針について議論いただきます。

シンポジウム III では、「インプラント周囲炎の治療を科学する」をテーマとして、児玉利朗先生 (神奈川歯科大学附属横浜クリニック インプラント科 特任教授)、辰巳順一先生 (朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野 教授) をはじめとする先生方にご登壇いただく予定です。インプラント周囲炎の病態・診断・治療・予後評価について、最新の科学的知見と臨床的課題を踏まえて議論いただきます。

歯科衛生士シンポジウムでは、「歯科衛生士の業務拡大—新たな保健医療ニーズと未来への変革—」をテーマとして、武藤智美先生 (日本歯科衛生士会 会長)、鈴木 瞳先生 (千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科 教授)、竹内康雄先生 (東京科学大学口腔保健学講座生涯口腔保健衛生学分野 教授) にご登壇いただく予定です。社会構造や保健医療ニーズの変化を背景に、教育・臨床・地域保健・制度などの視点から、歯科衛生士の専門性と今後の役割について考えます。

このほか、認定医・歯周病専門医教育講演、歯科衛生士教育講演、専門医機構共通研修講演、一般口演・ポスター発表、歯科衛生士口演・ポスター発表、ランチョンセミナー、企業展示など、多彩なプログラムを企画しております。

本大会は、日本歯周病学会の学術大会として初めて、羽田空港エリアで開催されます。羽田空港は、日本全国と世界を結ぶ空の玄関口であり、多様な人々や知が交わる場所でもあります。国内外から多くの皆様が集うこの地で、第70回という節目の大会を開催することには、大きな意義があると考えております。これまでに蓄積されてきた歯周病学の知見を結び、新たな歯周病治療の未来を切り拓く契機となる大会を目指します。国内外からのアクセスにも恵まれた羽田の地で、多くの皆様と学術的な交流を深め、世代や所属を超えて語り合う場として、実りある大会にしたいと考えております。

「歯周病治療を科学する」というテーマの下、これまでの歯周病学を振り返り、現在地を見つめ、これからの歯周病治療をともに考える2日間をしたいと願っております。スタッフ・関係者一同、皆様をお迎えするため準備を進めております。羽田の地で、多くの参加者とお会いできますことを楽しみにしております。皆様のご参加を、心からお待ち申し上げます。

1. 会 期

令和9（2027）年5月21日（金）、22日（土）

2. 会 場

ベルサール羽田

〒144-0041 東京都大田区羽田空港2丁目7-1

コングレスクエア羽田

〒144-0041 東京都大田区羽田空港1丁目1番4号

ゾーンJ

3. テーマ

歯周病治療を科学する（The Science of Periodontal Therapy）

4. 事前参加登録期間

令和8（2026）年11月12日（木）正午より

令和9（2027）年3月26日（金）正午まで

大会参加費につきましては、決まり次第、大会ホームページ等でお知らせいたします。

5. 演題申込および抄録登録期間

令和8（2026）年11月12日（木）正午より

令和8（2026）年12月24日（木）正午まで

登録期間終了日は、アクセス集中によるエントリー遅延、不具合が起りやすいので、早めに登録をお願いします（登録期間以降は、受付・オンライン修正・削除はできません）。発表方法に関する詳細は、学術大会ホームページで案内予定です。演題登録時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認のうえ、ご応募くださいますようお願い申し上げます。

第70回春季日本歯周病学会学術大会 事務局

神奈川歯科大学臨床科学系歯科保存学講座歯周病学分野
準備委員長：杉原俊太郎

〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地

TEL：046-822-8884

第70回春季日本歯周病学会学術大会 運営事務局

（株）日本旅行西日本 MICE 営業部

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3

大阪駅前第3ビル3階

TEL：06-6440-1420 E-mail：jsps70@nta.co.jp

第70回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター （認定医・歯周病専門医、若手ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・歯周病専門医、若手ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集の受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。以下に概要を記します。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細は学術大会 Web サイト上で公開予定です。認定医・歯周病専門医、若手、ならびに歯科衛生士症例のポスターカ

テゴリーごとに必ずご確認ください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が歯周病専門医ならびに学会認定資格（認定医・指導医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また、本学術大会における筆頭発表は1名1演題

までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

令和8(2026)年11月12日(木)正午より

令和8(2026)年12月24日(木)正午まで

【注意事項】

A) 臨床ポスター、歯科衛生士ポスターは症例発表の場で、臨床研究の発表は認めておりません。臨床研究に該当する場合、一般演題での登録をお願いします。

B) 「認定医・歯周病専門医申請における医薬品・機器の使用に関する考え方(薬機使用の考え方)」

https://www.perio.jp/member/certification/recognition/file/new/info_220602.pdf

「学術大会・臨床ポスター応募症例チェックリスト(学術大会ポスターチェックリスト)」

https://www.perio.jp/member/award/file/special/poster_checklist.pdf

上記を遵守いただきますようお願いいたします。



薬機使用の
考え方



ポスター
チェックリスト

C) 登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいので、お早めに登録をおすすめください。

D) 演題申込時には学術大会ホームページ記載の留意事項を必ずご確認のうえ応募くださいますようお願いいたします。上記事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます(歯周病専門医の申請時、および認定医と歯周病専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は

10単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位)。なお、感謝状は学術大会終了後郵送いたします。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ210cm×幅90cmです。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内していますのでご確認ください。**演題番号の個所や顔写真の掲示場所、「同意や承認」(手術の患者同意あり、発表の患者同意あり、未承認薬等使用状況の表示、利益相反状態の開示(コメント))の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。**

印刷前にPDF形式で発表データを提出いただき、認定3委員会・大会校により、事前チェックを行います。なお、演題登録後に抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。問題が生じましたら運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・歯周病専門医優秀臨床ポスター賞、ならびに若手臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストデンタルハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいた発表のうち症例発表が選考対象となります(ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外)。受賞発表および表彰は次回学術大会(70周年記念大阪大会)にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管(データ版・紙版とも)にご協力願います。

歯周病専門医審査委員会委員長 山本松男

認定医委員会委員長 藤田 剛

歯科衛生士関連委員会委員長 三谷章雄

歯周病専門医・指導医・認定医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医・歯周病専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびに歯周病専門医研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 歯周病専門医・指導医申請(第76回専門医・指導医認定審査)および各資格の更新

令和8(2026)年11月9日(月): 受付開始

令和8(2026)年11月27日(金): 締切(消印有効)

令和9(2027)年1月15日(金): 申請および更新に関する書類審査会開催

令和9(2027)年3月6日(土): (歯周病専門医申

請者のみ）歯周病専門医本試験（ケースプレゼンテーション、口頭試問、ならびに筆記試験）開催

※第 68 回専門医認定審査より筆記試験が導入されました。書類審査合格通知時に詳細をご案内します。

令和 9（2027）年 5 月 20 日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

令和 9（2027）年 5 月 21 日（金）：第 70 回春季学術大会（東京）時に合格発表

令和 9（2027）年 7 月頃：歯周病専門医審査合格証・指導医認定証発行*

※日本歯科専門医機構発行の歯周病専門医認定証は令和 9（2027）年度末に行われる運用審査承認後に発行予定

2. 認定医申請（第 37 回認定医認定審査）および更新
令和 8（2026）年 11 月 30 日（月）：受付開始
令和 8（2026）年 12 月 18 日（金）：締切（消印有効）
令和 9（2027）年 2 月 4 日（木）：申請および更新に関する書類審査会開催

2025 年後期より、認定医新規申請書類の提出方法が一部変更となります。詳細につきましては、学会ホームページにてご確認ください。

令和 9（2027）年 5 月 20 日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：コンgresクエア羽田

申請・更新合格者を理事会で承認

令和 9（2027）年 5 月 21 日（金）：第 70 回春季学術大会（東京）時に合格発表

令和 9（2027）年 7 月頃：認定医認定証発行

「一般演題（臨床）チェックリスト」「臨床ポスターチェックリスト」「認定医・歯周病専門医申請における医薬品・機器の使用に関する考え方」（日本歯周病学会会誌特別号参照）を参考にしてください。

3. 認定歯科衛生士申請（第 44 回認定歯科衛生士認定審査）および更新
令和 8（2026）年 10 月 19 日（月）：受付開始
令和 8（2026）年 11 月 6 日（金）：締切（消印有効）
令和 8（2026）年 12 月 6 日（日）：申請および更新

に関する書類審査会開催

令和 9（2027）年 2 月 14 日（日）：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

令和 9（2027）年 5 月 20 日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

令和 9（2027）年 5 月 21 日（金）：第 70 回春季学術大会（東京）時に合格発表

令和 9（2027）年 7 月頃：認定歯科衛生士認定証発行・認定歯科衛生士襟章送付

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<https://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。

なお、規則・細則は改定されることがありますので、ホームページにおける申請受付前 1 カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

歯周病専門医研修施設申請・更新のお知らせ

歯周病専門医の研修施設を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は令和 8（2026）年 11 月 9 日（月）～令和 8（2026）年 11 月 27 日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ（<https://www.perio.jp>）に記載してあります。

認定医、歯周病専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる歯周病専門医審査委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は令和 8（2026）年 11 月 9 日（月）～令和 8（2026）年 11 月 27 日（金）（消印有効）です。手続きの方法等を学会ホームページ（<https://www.perio.jp>）に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。令和 9（2027）年 2 月末頃までに歯周病専門医審査委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

学会プロモーション活動について

国民に対する歯周病啓発活動について、進捗状況をお伝えします。

1. 国民向け新ホームページ「ペリオぶっく」

記事内のイラスト修正等を行い、よりわかりやすい内容に更新しました。リンクフリーですので、勤務先ウェブ



ペリオぶっく

サイトへの掲載を歓迎します。また、歯科医師会等で転載される際は学会事務局までお申し出ください。
<https://periobook.perio.jp/>

2. 国民向け歯周病関連のPR動画の作成

令和8(2026年)3月11日より、LINEスタンプ第2弾を公開しました。また、自治体や地域の歯科医師会・歯科衛生士会における歯科に関する普及活動で「にゃんかむちゅ〜」キャラクターを使用したい、イベント会場で動画を放映したい場合は、学会事務局までご相談願います。



にゃんかむちゅ〜
公式YouTube
チャンネル



LINEスタンプ
購入サイト

日本歯科専門医機構報告

現時点までの歯周病専門医に関する対応について、ご報告いたします。流動的な状況もございますので、今後、取り扱い等の変更が発生する可能性があることをご了承ください。今後も、タイムリーに情報を発信いたしますので、会員情報の登録内容のご確認、ならびに電子メールご登録をお願いいたします。

口腔保健協会会員システム「OHASYS」

<https://ohasys.net/login>

※会員番号の確認はお手元の

会員カードをご参照ください。



1. 日本歯科専門医機構「共通研修」について

令和7(2025)年度からの共通研修ルールを改めてご案内します。お手元の認定証をご参照のうえ、ご自身がどのグループに該当するのかをご確認ください(次頁表参照)。なお、このルールは新規申請者にも適用されますので、歯周病専門医取得を目指す会員各位におかれましてもご留意ください。

ご自身の共通研修単位の受講歴は、研修主催元が多数あるため学会事務局での把握が困難です。生涯研修記録簿にて適時記録のうえ、ご確認ください。

本学会では会員負担を考慮し、春季・秋季学術大会内で「共通研修」に認定された講演を実施し、現地参加もしくはオンライン参加の上、その講演を受講することで、カリキュラムを満たせるよう講演プログラムを編成しております。今後は、以下を開催予定です。

- ・第69回秋季学術大会：①医療倫理(倫理講演)
- ・第70回春季学術大会：③医療安全(医療安全委員会企画講演)
- ・70周年記念大阪大会：⑤医療関連法規・医療経済(倫理講演)

歯周病専門医資格の取得および更新をご予定の先生におかれましては、必要とされる「共通研修」の単位を確実に取得するために、各学術大会へ参加(Web参加も可能)のうえ、共通研修を受講してください。

2. 歯周病専門医の認定証発行について

日本歯科専門医機構認定歯周病専門医として制度が変更されたことに伴い、本学会は、歯周病専門医の認定証を、発行しないことになりました。それに代わるものとして、歯周病専門医審査(1次審査)に合格された方には「歯周病専門医審査合格証」を登録料入金後発送します。また、「歯周病専門医記念の楯(希望者のみ)」についても「歯周病専門医審査合格証の楯(希望者のみ)」に変更となっております。

なお、日本歯科専門医機構発行「歯周病専門医認定証」は、同機構による認定審査(2次審査)終了後、発行予定です。

3. 令和6(2024)年度以降における機構認証に関わる受益者負担(経費負担)について

令和6(2024)年度以降の歯周病専門医更新料/登録料に日本歯科専門医機構審査料として11,000円を上乗せし、受益者負担となっております。

4. 日本歯周病学会認定「歯周病専門医」記載終了時期について

日本歯科専門医機構の基本領域に対応する5つの学会認定専門医について、当面の間に限り広告を認めるとしていた経過措置を令和10(2028)年度末で終了する旨、令和6(2024)年3月29日付で厚生労働省より発出されました。現行の歯周病専門医における広告標榜は令和11(2029)年度以降、【日本歯科専門医機構認定歯周病専門医】のみとなり、【日本歯周病学会認定

指導医/歯周病専門医 有効期限※1	グループ	更新に必要な共通研修受講条件※2
2025年10月1日～ 2026年9月30日	A	条件1：毎年度2単位、更新手続申請時点を基準として5年間で計10単位取得していること
2026年10月1日～ 2027年9月30日	B	条件2：機構が定める共通研修区分5項目（①医療倫理、②患者・医療者関係の構築、③医療安全、④院内感染対策、⑤医療関連法規・医療経済）の受講歴を各1単位以上有すること
2027年10月1日～ 2028年9月30日	C	
2028年10月1日～ 2029年9月30日	D	上記条件1・2に加えて、条件3を満たすこと 条件3：共通研修区分「①医療倫理」「②患者・医療者関係の構築」「⑤医療関連法規・医療経済」における各々1単位（合計3単位）は日本歯科専門医機構が主催する共通研修受講歴を有すること
2029年10月1日～ 2030年9月30日	E	

※1：有効期限について。機構の指導により、3月31日または9月30日に統一されています。お手元の認定証で異なる記載の場合、以下のように読み替えてください。

認定証記載の有効期限	実質の有効期限
6月30日	→ 3月31日
10月31日、12月31日	→ 9月30日

※2：経過措置について（日本歯科専門医機構作成資料を一部改変）

機構主催共通研修の経過措置（日本歯科専門医機構作成資料を一部改変）

2029年4月から、共通研修区分の「①医療倫理」「②患者・医療者関係の構築」「⑤医療関連法規・医療経済」の各々1単位（合計3単位）については本機構が主催する共通研修を受講することが必須になります。

グループ	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
	← 経過措置期間 →					
2025年度 機構審査予定者	機構審査年	専門医更新過程（原則5年間）				機構審査年
A 2026年度 機構審査予定者		機構審査年	専門医更新過程（原則5年間）			
B 2027年度 機構審査予定者	2028年度までの機構審査では本機構が主催する共通研修を受講することは必須ではありません。現在取得をしている共通研修単位を取り直す必要はありません。		機構審査年	専門医更新過程（原則5年間）		
C 2028年度 機構審査予定者				機構審査年	専門医更新過程（原則5年間）	
D 2029年度 機構審査予定者	専門医取得・更新過程（原則5年間）				機構審査年	専門医更新過程（原則5年間）
E 2030年度 機構審査予定者	専門医取得・更新過程（原則5年間）				2029年度の機構審査から本機構が主催した上記共通研修を受講しているか確認いたします。そのため、2025年度から2028年度の間に上記区分各々1単位（合計3単位）を受講してください。	

歯周病専門医】という記載は不可となりますのでご注意ください。

5. その他

今後、日本歯科専門医機構の方針により、歯周病専門医、ならびに同研修施設の新規申請・更新時に関する基準などが変更になる可能性があります。その対応

に関してはなるべくご負担にならない方法を本学会内で引き続き検討中ですが、急な変更となることもございますので、学会からの連絡（電子メール、ニュースレターの内容等）をその都度ご確認くださいようお願いいたします。

ICD 協議会加盟と ICD 取得について

令和 7 (2025) 年 4 月 1 日付で、本学会は ICD (Infection Control Doctor) 協議会加盟学会となりました。ICD 協議会では感染制御の専門的知識を有する専門家：インфекションコントロールドクター (ICD) を養成しており、本学会においても、学術大会時に ICD 講習会を開催し、ICD の養成を行っていく予定です。

【令和 8 (2026) 年度 ICD 認定申請】

申請受付期間：令和 8 (2026) 年 4 月 1 日～10 月 31 日
(必着)

提出方法：学会事務局まで郵送

ICD 応募資格：詳細については、ICD 制度協議会のホームページ (申請手順) をご確認ください。

1. 感染対策実務歴が 5 点以上あり、所属施設長の証

明があること。

2. ICD 協議会の主催する講習会または厚生労働省の委託による院内感染対策講習会への参加実績が 3 回 (45 点) 以上あること (講習会参加実績に有効期限はありません)。

※第 69 回秋季学術大会内で ICD 講習会を開催します。申込は開催 1 週間前までに ICD 協議会ホームページよりお願いします。当日参加受付はございませんのでご注意ください。

3. 感染制御に関する論文または学会・研究会発表があること (筆頭 1 編または共同 2 編)。
4. 所属学会からの推薦があること。

令和 8 (2026) 年度 秋季総会について

秋季総会は以下の日時で開催予定です。参加人数の把握のため、出欠を事前に回答願います。

令和 8 (2026) 年 10 月 1 日 (木) 頃より、回答フォームでの受付開始予定です。詳細は、口腔保健協会会員管理システム「OHASYS」による電子メール配信でご案内いたします。

日時：令和 8 (2026) 年 10 月 16 日 (金)

10:40～12:00

場所：広島国際会議場

議事事項：庶務報告、会計報告、
各種委員会報告、その他

総会終了後、各賞表彰式実施



回答フォーム

各賞および奨学金助成募集のご案内

各賞および助成の募集を下記のとおり行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞 (Hu-Friedy Award) (令和 8 (2026) 年度)

令和 7 (2025) 年度実績：採択数 4/応募数 5

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員 見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、平成 7 (1995) 年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞 (奨励賞楯) のほかに副賞 Hu-Friedy Award (賞金 3 万円、クリスタルトロフィーならびに同社製品) が贈られます。4 名以内が選考されますので、学会ホーム



ページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：令和 8 (2026) 年

11 月 2 日 (月)～12 月 11 日 (金)

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2026

書類提出用パスワード：JSP2026Shorei

2. 日本歯周病学会教育賞 (取組み部門：Ishiyaku Award, コンテンツ部門：YDM Award) (令和 8 (2026) 年度)

令和 7 (2025) 年度実績：取組み部門 採択数 1/応募数 1, コンテンツ部門 採択数 0/応募数 0

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した取組み、

ならびにコンテンツを表彰することを目的としております。表彰対象は歯周病学の教育の発展に寄与する取組み、ならびにコンテンツです。応募資格は取組み、ならびにコンテンツ代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社、ならびにYDM株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（表彰状）のほかに、副賞 Ishiyaku Award, ならびに YDM Award（各賞金5万円）が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：令和8（2026）年

11月2日（月）～12月11日（金）

※消印有効

3. 奨学金助成（令和8（2026）年度募集 令和9（2027）年度実施）

令和7（2025）年度実績：採択数0/応募数0

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が平成23（2011）年度から基金として準備し、平成25（2013）年度に設置されたものです。助成者は、申請者から2名以内（1件の上限は100万円）が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：令和8（2026）年

11月2日（月）～12月11日（金）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2026

書類提出用パスワード：JSP2026lkusei

4. Young Investigator Award (SUNSTAR Award)（令和9（2027）年度）

令和7（2025）年度実績：採択数2/応募数4

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young



Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（Young Investigator Award 楯）のほかに、副賞 SUNSTAR Award（賞金5万円と記念品）が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格（申請期間開始日までに掲載予定）をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：令和9（2027）年

2月1日（月）～3月5日（金）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2027

書類提出用パスワード：JSP2026YIA

5. 日本歯周病学会地域活動賞（令和9（2027）年度）

令和7（2025）年度実績：採択数1/応募数1

本賞は、歯周病の予防・治療を通して、地域住民の健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的としております。表彰対象は地域社会の歯科保健、特に歯周病治療の向上に優れた功績のあった団体です。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

申請期間：令和9（2027）年

2月1日（月）～5月31日（月）

※消印有効

6. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀発表賞（KAKEN Award）（令和9（2027）年度春季学術大会発表）

令和7（2025）年度実績：採択数2/応募数4（第68回秋季学術大会発表）

本賞は、日本歯周病学会各学術大会においてポスター発表された歯周組織再生に関する優れた研究（臨床・基礎は問わない）および筆頭演者を表彰することを目的とし、令和5（2023）年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（歯周組織再生医学優秀発表賞楯）のほかに、副賞 KAKEN Award（賞金5万円）が贈られます。学会ホームページの応募資格をご



確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/presentation.shtml>

申請期間：令和 8（2026）年

11 月 2 日（月）～12 月 24 日（木）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2026

書類提出用パスワード：JSP2026Saisei

7. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀論文賞（KAKEN Award）（令和 8（2026）年度）

令和 7（2025）年度実績：採択数 2/応募数 4

本賞は、本賞募集前年 1～12 月に掲載、あるいはアクセプトされた歯周組織再生に関する論文（臨床・基

礎は問わず、幹細胞研究も対象）および著者を表彰することを目的とし、令和 5（2023）年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（歯周組織再生医学優秀論文賞楯）のほかに、副賞 KAKEN Award（賞金 10 万円）が贈られます。学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/paper.shtml>

申請期間：令和 9（2027）年

2 月 1 日（月）～3 月 5 日（金）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2026

書類提出用パスワード：JSP2026Ronbun

歯科衛生士教育講演のご案内

今年度の歯科衛生士教育講演はすべて終了いたしました。

来年度の予定につきましては、詳細決定次第、ホームページで通知いたします。

臨床研修会のご案内

今年度は静岡県三島市での開催を予定しております。詳細はホームページで通知いたします。

- 第 6 回中部地区（静岡）臨床研修会

日 時：令和 8（2026）年 12 月 20 日（日）

9：15～15：15

会 場：三島商工会議所会館

テーマ：「歯周治療のすそ野を広げる」

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。なお対象者および受賞者の所属は、選考・受賞時のものです。

学会賞（SUNSTAR Award）

沼部幸博

（日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座・教授）



西村英紀

（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野・教授）



八重柏 隆

（岩手医科大学歯学部口腔医学講座歯科医学教育学分野・教授）



奨励賞 (Hu-Friedy Award)

樋口花梨

(新潟大学医歯学総合病院歯周病科)

“Secretory leucocyte protease inhibitor regulates bone metabolism and inflammation in experimental mouse periodontitis” (communications biology)



本杉駿弥

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)

“Enrichment of *Porphyromonas gingivalis* in colonic mucosa-associated microbiota and its enhanced adhesion to epithelium in colorectal carcinogenesis: Insights from *in vivo* and clinical studies”

(PLOS ONE)



佐藤晃平

(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

“Glomerular Haematopoietic Prostaglandin D Synthase-Prostaglandin D2 Axis Contributes to the Periodontitis-Related Exacerbation of Diabetic Nephropathy in KK-A^y Mice”

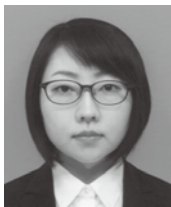
(Journal of Clinical Periodontology)



永田千晶

(岡山大学病院歯科(歯周科部門))

“Periodontitis associated with *Porphyromonas gingivalis* infection is a risk factor for infertility through uterine hypertrophy” (Scientific Reports)



教育賞

取組み部門 (Ishiyaku Award)

富田幸代

(東京歯科大学歯周病学講座)
「患者治療動画と 3D printed model (3D 模型) を使用したスケーリング・ルートプレーニング (SRP) の教育コンテンツの開発」



コンテンツ部門 (YDM Award)

受賞者なし

優秀臨床ポスター賞 (Quintessence Award)

最優秀臨床ポスター賞

嘉藤弘仁

(大阪歯科大学歯学部歯周病学講座)

「掌蹠膿疱症の皮膚症状改善をもたらした歯周治療の可能性—5 年安定経過症例からの考察—」



優秀臨床ポスター賞

櫻井きらら

(鹿児島大学病院歯周病科)

「全身の水疱、歯肉のびらんを伴う DPP-4 阻害薬関連類天疱瘡を併発した慢性歯周炎の一症例」



若手優秀臨床ポスター賞 (JSP Young Clinician Poster Award)

若手最優秀臨床ポスター賞

牧野太郎

(稲毛デンタルクリニック)

「広汎型慢性歯周炎 (Stage III Grade C) 患者に対して歯周組織再生療法を含む歯周外科治療を行った一症例」



若手優秀臨床ポスター賞

村田結衣

(徳島大学病院医歯薬学研究
部歯周歯内治療学分野)
「上顎右側大臼歯の隣接面部
の根分岐部病変に対してリゲ
ロス®とサイトランス® グラ
ニニールを併用した歯周組織
再生療法を行った症例」



歯周組織再生医学優秀発表賞 (KAKEN Award)

第 68 回秋季学術大会発表

永田 崇

(長崎大学大学院医歯薬学総
合研究科硬組織発生再生学分
野)
「多様な骨髄間質細胞による
顎骨再生メカニズムの解明」



ベストデンタルハイジニスト賞 (TAKARA BELMONT Award)

伊藤星良

(北海道・円山グリーン歯科)
「予後不良歯の保存に努めた
重度慢性歯周炎患者の 14 年
経過症例」



阪本 舞

(岡山大学大学院医歯薬学総
合研究科歯周病態学分野)
「コラーゲン結合型塩基性線
維芽細胞増殖因子は Class 3
根分岐部病変における歯周組
織再生を促進する」



学部学生優秀発表賞 (Nakanishi Award)

Young Investigator Award (SUNSTAR Award)

藤森良介

(広島大学大学院医系科学研究
科歯周病態学研究室)
「*P. gingivalis* 感染モデルマ
ウスにおける gingipain の歯
周炎増悪効果と抗 IL-6 受容
体抗体の歯周炎抑制効果」



小栗瑞希

(東京科学大学歯学部口腔保
健学科口腔保健工学専攻 4
年)
「口腔内細菌叢破綻の耐糖能
異常およびインスリン抵抗性
への影響」



今井千尋

(東京科学大学大学院医歯学
総合研究科歯周病学分野)
「母親の結紮誘導歯周炎が仔
の脳に及ぼす影響」



企画調査研究助成終了報告

歯周治療が冠動脈疾患患者の術後経過にもたらす効果
の探索—横断および前向き研究—

水谷幸嗣 (東京科学大学 総合診療歯科学分野)

【背景】冠動脈疾患 (CAD) は、世界の主要死亡原因

の一つである。CAD の危険因子は広く研究されており、高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙、肥満などの既知のリスク因子の管理が推奨されている。しかし、既知のリスク因子が十分にコントロールされているにもかかわらず CAD を発症する患者は多く存在してお

り、既知のリスク以外の因子に関心が高まっている。また、CAD 患者では冠動脈のみならず全身の動脈硬化性変化を評価することが臨床的に重要である。歯科用パノラマエックス線写真で偶発的に検出される頸動脈石灰化 (calcified carotid artery atheroma : CCAA) は、全身性動脈硬化を反映する所見の一つとして報告されている。

一方で、CAD 患者における歯周炎重症度と CCAA との関連、さらに歯周治療介入が CAD 患者の歯周炎症負荷や術後経過にどのような影響を及ぼすかについては、十分に明らかではない。

われわれのグループはこれまでに、CAD の主要なカテーテル治療である経皮的冠動脈インターベンション (PCI) を受けた患者の後ろ向きコホート研究において、術前の歯周病の重症度が、PCI の術後の臨床転帰と相関をもつことを示している。そこで、本研究の目的は、PCI を受ける CAD 患者を対象に歯周炎重症度と CCAA との関連を横断的に検討するとともに、歯周治療が PCI 術後の臨床転帰を改善するかを前向きに調査することとした。

【方法】2023 年 9 月から 2025 年 5 月に、安定狭心症または急性冠症候群により PCI を予定または施行された CAD 患者を対象とした。横断解析では 91 名を対象に、2018 年 AAP/EFP 分類に基づく歯周炎 Stage/Grade 分類、ポケット深さ (PD) 4 mm 以上および 6 mm 以上の歯の割合を評価し、パノラマエックス線写真上の CCAA との関連を解析した。さらに、54 名を対象とした前向き縦断研究を行い、このうち歯周治療介入を受け、ベースラインおよび 1 年後の PD, Bleeding on Probing (BOP) 率, O'Leary のプラークコントロールレコード (PCR), Periodontal Inflamed Surface Area

(PISA), Periodontal Epithelial Surface Area (PESA) などの歯周病検査値の変化を評価した。

【結果】横断解析では、91 名中 29 名 (31.9%) に CCAA を認めた。多変量回帰分析の結果、Stage III/IV 歯周炎、PD 4 mm 以上の歯の割合の最高四分位、PD 6 mm 以上の歯の割合の最高四分位は、いずれも CCAA の存在と有意に関連した。

前向き縦断研究の歯周治療群 18 名において、歯周治療に伴う有害事象を認めなかった。PCR は $46.2 \pm 22.4\%$ から 1 年後に $23.3 \pm 20.6\%$ へ低下した。PD 4 mm 以上の歯の割合は $20.6 \pm 14.4\%$ から 1 年後に $5.8 \pm 6.0\%$ へ、BOP 陽性率は $26.1 \pm 15.1\%$ から 1 年後に $7.4 \pm 7.0\%$ へ、統計学的有意に低下した。PISA は $440.4 \pm 303.1 \text{ mm}^2$ から $110.1 \pm 121.0 \text{ mm}^2$ へ、PESA は $1,346.4 \pm 472.3 \text{ mm}^2$ から $1,033.4 \pm 320.5 \text{ mm}^2$ へ統計学的有意に低下した。

【考察】本研究により、CAD 患者において重度歯周炎および深い歯周ポケットの割合が、パノラマエックス線写真上の CCAA 所見と関連する可能性が示された。

また、歯周治療介入を受けた症例では、1 年後に PD 4 mm 以上の歯の割合、BOP 陽性率、PCR、PISA、PESA が有意に改善した。これらの結果は、CAD 患者における歯周炎症負荷の評価と管理が、口腔局所の炎症制御にとどまらず、動脈硬化性疾患を有する患者の全身管理を考慮した医科歯科連携において重要である可能性を示している。今後は症例数を増やし、歯周治療による炎症負荷の改善が CCAA の進行、PCI 後の臨床経過、ならびに循環器イベントに及ぼす影響を前向きに検証する必要がある。

なお、本研究のうち横断研究に関する成果は、第 68 回春季日本歯周病学会学術大会にて発表した。

第 59 回「若手研究者の集い」開催報告

第 69 回春季日本歯周病学会学術大会の開催にあたり、令和 8 年 5 月 21 日、アクトシティ浜松（静岡県浜松市）において、第 59 回「若手研究者の集い」を開催いたしました。講師には、広島大学病院口腔先端治療開発学（口腔検査センター）の吉本哲也助教、ならびに東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野の永田 瑞助教をお迎えしました。吉本先生には「トランスレーショナル歯周医学—分子病態と再生医療をつなぐ挑戦—」、永田先生には「歯周組織はどう作られ、どう再生するのか？—生体内幹細胞の謎に挑

む—」と題してご講演いただきました。

吉本先生は、2010 年に広島大学歯学部を卒業され、2015 年に同大学大学院で歯周病態学を専攻し、博士（歯学）の学位を取得されました。その後、広島大学病院歯周診療科において臨床と研究に従事されました。2016 年から 2023 年まで Yasuyoshi Ueki 先生の研究室に博士研究員として留学され、米国ミズーリ大学カンザスシティ校およびインディアナ大学で研究に取り組みされました。この間、2017 年から 2019 年までは日本学術振興会海外特別研究員として研究に従事され、

2023年に帰国されて現在にいたっておられます。

ご講演では、研究留学にいたるまでの経緯、留学先での研究生生活、帰国後に取り組まれている研究についてご紹介いただきました。特に、Ueki先生の研究室で取り組まれたケルビズムおよび骨代謝研究の知見を、歯周病研究へと展開していく過程を明快にご説明いただきました。なかでも、吉本先生らが明らかにされた、骨細胞が従来知られていなかった細菌センサーとして機能するという知見は大変印象深いものでした。骨感染における自然免疫系MyD88シグナルを介したRANKL制御機構は、歯周病に伴う骨破壊の病態理解を深めるとともに、新たな治療標的の探索につながるという重要な内容でした。

永田先生は、2012年に東京医科歯科大学歯学部を卒業され、2017年に同大学大学院で歯周病学を専攻し、博士（歯学）の学位を取得されました。その後、同大学病院歯周病科において臨床と研究に従事されました。2018年から2021年まで米国ミシガン大学、2021年から2024年までテキサス大学に博士研究員として留学され、Noriaki Ono先生およびWanida Ono先生の研究室で研究に取り組まれました。この間、2021年から2023年までは日本学術振興会海外特別研究員として研究に従事され、2024年に帰国されて現在にいたっておられます。

ご講演では、研究留学にいたるまでの経緯に加え、留学中に取り組まれた歯周組織の形成・再生を担う生体内間葉系幹細胞の動態解析について、最新の知見を交えながらわかりやすく解説いただきました。特に、遺伝子改変マウスとシングルセル解析を組み合わせ、歯周組織において時空間特異的に存在する幹細胞集団を同定し、その機能を検証する研究は、歯周組織の発生・再生機構の理解を大きく前進させる可能性を感じさせる、大変興味深い内容でした。

お二方はいずれも歯周病学を研究の基盤としなが



ら、同時期に海外で長期にわたって基礎研究に深く取り組まれ、そこで得られた知見を歯周病研究へと還元されている点で共通していました。研究に対する情熱と、今後の歯周病学を牽引しようとする強い意志が伝わるご講演であり、参加者にとっても大きな刺激となりました。

また、会の中盤には、一般財団法人サンスター財団の桂木康弘様より、海外留学助成制度についてご案内いただきました。今回は、講演者を含め6大学から11名が参加し、講演後には研究内容や海外留学を巡って活発な質疑応答と自由討論が交わされました。参加者同士の率直な意見交換を通じて、若手研究者間の交流を深める有意義な機会となり、盛会裡に終了することができました。

最後に、本会の開催にご協力いただきました関係者各位、前世話人の奥羽大学 山崎厚作先生、大会長の辰巳順一先生、ならびに準備委員長の北後光信先生に心より感謝申し上げます。

世話人 芝 多佳彦

東京科学大学大学院歯学総合研究科歯周病学分野

日本歯周病学会会誌のご案内

日本歯周病学会会誌 Vol. 68 (2026) No. 1

• ミニレビュー

「終末糖化産物が歯周病の病態に及ぼす影響を再考する」坂本英次郎, 岩下未咲, 吉村篤利

「歯周炎と咬合性外傷で生じる歯槽骨吸収におけるメカニカルストレス応答性カルシウムイオンチャネルの関与」石原裕一, 松下健二

• 原著

「歯周炎の進行と咀嚼機能に関する研究」

本田虎太郎, 佐藤 匠, 辰巳順一

日本歯周病学会会誌 Vol. 68 (2026) No. 2

• ミニレビュー

「バイオマーカーを用いた歯周病スクリーニング・診断の基本事項」

木戸淳一, 廣島佑香, 木戸理恵, 板東美香, 稲垣裕司,
湯本浩通

• 原著

「AIによる口腔内画像を用いたBOP予想モデルの構築」
佐藤 匠, 飯田幸弘, 伊神裕高, 森永啓嗣, 勝又明敏,
辰巳順一
「ゲノム編集技術を用いた日本人高カバー率擬似 HLA
ハプロタイプホモ歯髄細胞ストックの構築方法」
有本周平, 川口知子, 辰巳順一, 手塚建一

• 症例報告

「力に影響された広汎型重度歯周疾患の包括診療 +
Brachy-Facial-Type の 30 年経過症例から歯周治療の
大局を探る」 平野治朗
「患者中心の歯周治療：広汎型歯周炎（ステージⅢ，グ
レード C）脳出血後遺症患者へのアプローチ」
植村美穂, 秋本昌弘
「SPT 中の口腔内変化から鉄欠乏性貧血の関与が疑わ
れた一症例」
平野恵実, 平野真澄, 両角祐子, 大森みさき, 佐藤 聡



編集後記

本年7月に発生した「令和8年熊本地震」により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。隣県の福岡に住む私にとっても決して他人事ではなく、被災地の一日も早い復興と、皆様に平穏な日々が戻ることを心より願っております。

ニュースレター 2026 年第 2 号をお届けいたします。今号の巻頭では、山田 聡国際交流委員会委員長より「国際交流を、学会の日常へ」と題したご挨拶をいただきました。今秋は、韓国歯周病学会（ソウル）、アメリカ歯周病学会との共催大会（シアトル）、そして第 16 回アジア太平洋歯周病学会（APSP）学術大会（京都）と、国際的な学術交流の機会が続きます。国境を越えた交流を通じて、新たな知見やつながりが生まれることを期待しております。また、本学会の発展に多大なご尽力をいただいた亀山洋一郎先生の追悼文を掲載しております。先生が歯周病学の発展に尽くされたご功績に深く感謝申し上げるとともに、謹んで哀悼の意を表します。

来年5月には、羽田空港に隣接する会場にて第70回春季学術大会が開催されます。「歯周病治療を科学する」をメインテーマに、充実したプログラムが企画されています。本号では臨床ポスターの発表申込についてもご案内しておりますので、多くの会員の皆様からのご応募をお待ちしております。

このほか、専門医・指導医・認定医および認定歯科衛生士制度の申請・更新に関する重要なお知らせ、日本歯科専門医機構からの最新報告、新ホームページ「べりおぶっく」やLINE スタンプなどの広報活動、ICD 協議会加盟に伴う ICD 取得に関するご案内など、会員の皆様にとって重要な情報を掲載しております。また、秋季総会、各種賞・助成、企画調査研究助成終了報告、臨床研修会、「若手研究者の集い」開催報告、会誌のご案内など、本学会の幅広い活動もご紹介しています。

広報委員会では、これからも会員の皆様にとって有益で身近な情報をお届けできるよう努めてまいります。本ニュースレターが、日々の臨床・研究・教育活動の一助となれば幸いです。季節の変わり目でもありますので、どうかご自愛いただき、今後ますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

（広報委員会委員 吉永泰周）